

CASBEE[®] 京都-新

評価ソフト(標準システム)

バージョン

CASBEE京都-新築2018(v.1.0)

■使用評価マニュアル:

CASBEE-京都-建築(新築)2018年版

1) 概要入力

① 建物概要

■ 建物名称	京都市上下水道局南部拠点整備事業	
■ 建設地・地域区分	京都市南区上鳥羽鉾立町11-3	6地域
■ 地域・地区	工業地域	
■ 竣工年(予定/竣工)	2022年4月	予定
■ 敷地面積	8500.03	m ²
■ 建築面積	5165.79	m ²
■ 延床面積	33,813.29	m ²
■ 建物用途名	事務所 事務所,	
■ 階数	地上8F	
■ 構造	S造	
■ 平均居住人員	1,300	人(想定値)
■ 年間使用時間	4,000	時間/年(想定値)

② 評価の実施

■ 評価の実施	2020年12月24日	実施設計段階
■ 作成者	類設計室	
■ 確認日	2020年12月24日	
■ 確認者	類設計室	
■ LCCO2の計算	標準計算	→LCCO2算定条件シート(標準計算)を入力

2) 個別用途入力

① 用途別延床面積

事務所	33,813.29	m ²	事務所	33,813.29	m ²
			官公庁		m ²
学校	0.00	m ²	幼稚園・保育園		m ²
			小・中学校		m ²
			小・中学校(北海道以外)		m ²
			高校		m ²
			大学・専門学校		m ²
物販店	0.00	m ²	デパート・スーパー		m ²
			その他物販		m ²
飲食店		m ²			
集会所	0.00	m ²	劇場・ホール		m ²
			展示施設		m ²
			スポーツ施設		m ²
工場		m ²	うち省エネ計画対象面積		m ²
病院		m ²			
ホテル		m ²			
非住宅 小計	33,813.29	m ²			
集合住宅	0.00	m ²	専用部		m ²
			共用部		m ²

② 住居・宿泊部分の比率

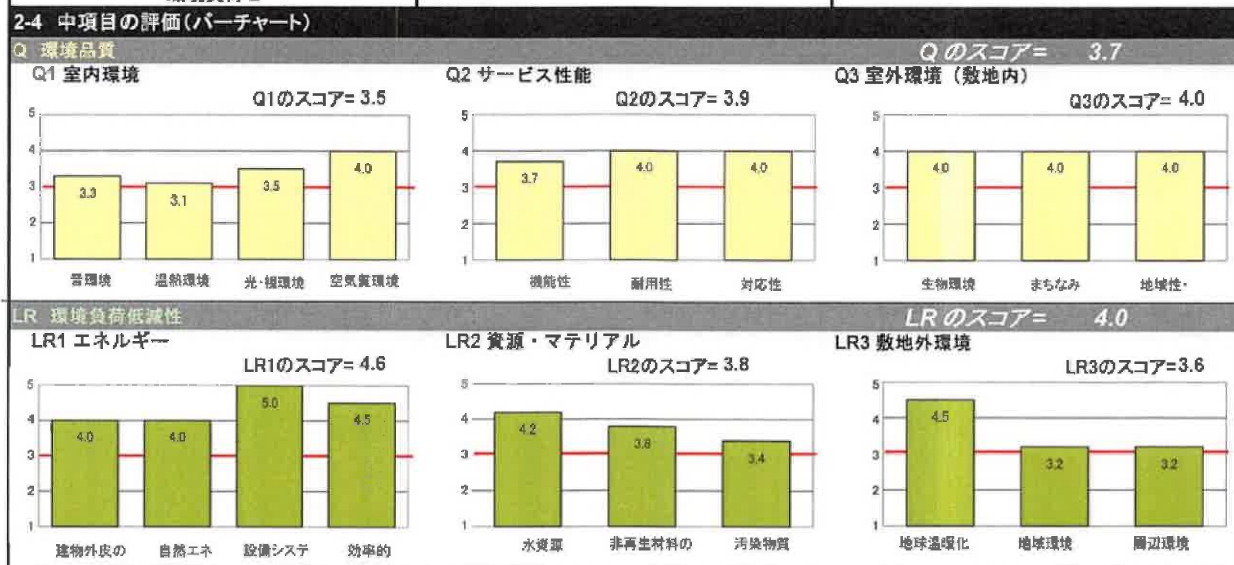
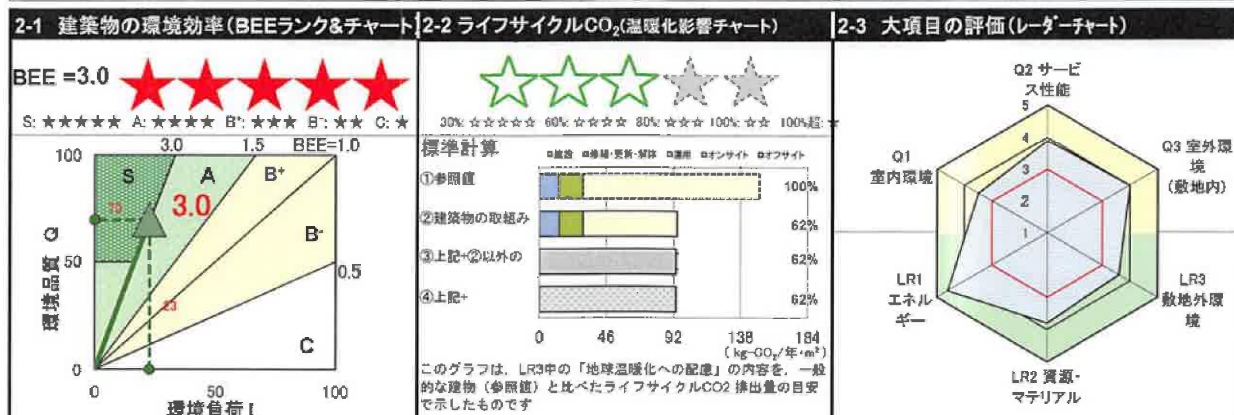
■ 病院の延床面積のうち、病室部分の床面積の比率	
■ ホテルの延床面積のうち、宿泊部分の床面積の比率	
■ 集合住宅の延床面積のうち、住戸部分の床面積の比率	0.00

CASBEE® 京都-新築

標準システム
評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-京都-建築(新築)2018年版 | 使用評価ソフト: CASBEE京都-新築2018 (v.1.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	京都市上下水道局南部拠点整備事業	階数	地上8F
建設地	京都市南区上鳥羽錦立町11-3	構造	S造
用途地域	工業地域	平均居住人員	1,300 人
地域区分	6地域	年間使用時間	4,000 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年4月 予定	評価の実施日	2020年12月24日
敷地面積	8,500.03 m ²	作成者	類設計室
建築面積	5,165.79 m ²	確認日	2020年12月24日
延床面積	33,813.29 m ²	確認者	類設計室



3 設計上の配慮事項		その他
総合 - 災害時でも施設機能を維持できる計画とした。 - 計画地周辺と調和するデザインとした。 - 光庭を設け、自然通風や自然光の取り入れを図った。 - 執務空間はモジュール設計と無柱空間により、体制変更に対応しやすいフレキシブルな空間を実現した。		
Q1 室内環境 - 南北サッシ面には、簡易エアフローを導入し、ベリメータレス化を図った。 - 建物全体を禁煙とした。 - 化学汚染物質の使用量を減らすべく、F☆☆☆☆建材の使用	Q2 サービス性能 - バリアフリー新法の移動円滑化基準を満たした。 - 建物構造の耐震性能は建築基準法のⅡ期(1.25倍以上)とした。 - 建物共用部の水回りには、清掃性の高い材料を採用し	Q3 室外環境(敷地内) - 地上部や屋上の緑化により、良好な環境を実現したほか、敷地内の温熱環境の向上を図った。 - 北側空地は開通時は近隣住民も利用できるほか、東側には終日通行できる歩道を整備した。
LR1 エネルギー - 省エネ機器を採用し、環境負荷の低減を図った。 - BEMSを導入し効率的運用が図れるようにした。 - チームにより、自然通風を促進し、夏の冷房期間の短縮を図った。	LR2 資源・マテリアル - 節水型器具の採用や、雨水利用設備を導入し、水資源の保護を図った。 - 躯体以外に、リサイクル材料を採用し、非再生性資源の使用量を削減した。	LR3 敷地外環境 - 省エネ機器を採用し、ライフサイクルCO₂の排出量を削減した。 - 来客用や管理用車両の駐車場を整備し、周辺地域への交通負荷を低減した。 - 屋外照明などの周辺地域への漏れ対策を行った。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE 京都 新築

バージョン CASBEE京都-新築 独自システム2018(v.1.0)

独自システム
評価結果

1 建物概要 建物名称 京都市上下水道局南部拠点整備事業 延床面積 33,813.29 m ² 用途 事務所 事務所		BEE 3.0 S ★★★★★ 使用CASBEE評価マニュアル CASBEE-京都-新築(新築)2018年版 使用CASBEE評価ソフト CASBEE京都-新築2018(v.1.0)	
2 重点項目への取組度			
1 大切に使う			
2 とともに住まう			
3 自然からつくる			
3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア			
1 大切に使う		合計点 33 /41	
■長寿命化		合計点 15.6 /20	
◇メンテナンスの容易性 Q2/ 3.3.1 空調配管の更新性 Q2/ 3.3.2 給排水管の更新性 Q2/ 3.3.3 電気配線の更新性 Q2/ 3.3.4 通信配線の更新性 Q2/ 3.3.5 設備機器の更新性 (注 上記5項目のスコアの平均が合計点に加算される)	スコア 4 スコア 4 スコア 5 スコア 5 スコア 5	◇物理的長寿命 Q2/ 2.2.1 躯体材料の耐用年数 <自由記述>	スコア 4 スコア 4
<自由記述>		<自由記述>	
■省資源		合計点 16 /20	
LR2/ 2.1 材料使用量の削減 LR2/ 2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用 LR2/ 2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 LR2/ 2.6 部材の再利用可能性向上への取組	スコア 3 スコア 3 スコア 5 スコア 5	<自由記述>	
◆独自加点項目		合計点 1 /1	
LR2/ 2.1 材料使用量の削減 LR2/ 2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用 LR2/ 2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	主要構造部が木造躯体である場合で、「持続可能な森林から産出された木材」を使用しており、うち地域産木材を使用している。 主要構造部に使用した「持続可能な森林から産出された木材」のうち、地域産木材を使用している。 「持続可能な森林から産出された木材」のうち、地域産木材を使用している。	対象外 対象外 〇	
2 とともに住まう		合計点 28 /42	
■自然とともに住まう		合計点 9 /15	
◇自然を感じられる計画 Q2/ 1.2.1 広さ感・景観 Q3/ 1 生物環境の保全と創出 Q3/ 3.2 敷地内温熱環境の向上	スコア 2 スコア 4 スコア 3	<自由記述>	
<自由記述>		<自由記述>	
■地域とともに住まう		合計点 11 /15	
◇地域環境やコミュニティへの配慮 Q3/ 3.1 地域性への配慮、快適性の向上 LR3/ 2.2 温熱環境悪化の改善 LR3/ 3.3.2 星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		スコア 5 スコア 3 スコア 3	
<自由記述>		<自由記述>	
■歴史とともに住まう		合計点 8 /10	
◇歴史性への配慮 Q2/ 1.2.3 内装計画 Q3/ 3.1 地域性への配慮、快適性の向上		スコア 3 スコア 5	
<自由記述>		<自由記述>	
◆独自加点項目		合計点 0 /2	
Q2/ 1.2.1 広さ感・景観 LR3/ 3.3.2 星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	京都重点項目による加点により、レベル5を超える。 格子状ルーバーや簾状スクリーンによりガラス面等の反射光を抑制している。または外壁に反射率の低い自然素材を採用している等の推奨内容の取組を、1以上実施している。	〇	
3 自然からつくる		合計点 35 /50	
■自然材料の利用		合計点 11 /15	
Q2/ 1.2.3 内装計画 Q3/ 3.1 地域性への配慮、快適性の向上 LR2/ 2.5 持続可能な森林から産出された木材	スコア 3 スコア 5 スコア 3	<自由記述>	
<自由記述>		<自由記述>	
■自然環境の利用		合計点 21 /30	
Q1/ 3.1.1 星光率 Q1/ 3.1.3 星光利用設備 Q1/ 3.2.1 星光制御 Q1/ 4.2.2 自然換気性能	スコア 1 スコア 3 スコア 4 スコア 4	LR1/ 2 自然エネルギー利用 LR2/ 1.2.1 雨水利用システム	スコア 4 スコア 5
<自由記述>		<自由記述>	
◆独自加点項目		合計点 3 /5	
LR2/ 2.5 持続可能な森林から産出された木材 Q1/ 3.1.3 星光利用設備 Q1/ 3.2.1 星光制御 LR1/ 3 設備システムの高効率化	「持続可能な森林から産出された木材」のうち、地域産木材を使用している。 デザインされた格子状ルーバーやライトシェルフ、軒、庇等、推奨内容の星光利用設備を採用している。 デザインされた格子状ルーバーやライトシェルフ、軒、庇等、推奨内容の星光利用設備を採用している。 評価する取組のうち、何れかの手法が採用されている。(但し、モニタメントの計画を除く) 上記の内容に加え、利用量が15MJ/m ² ・年以上となる場合。	〇 〇 〇 〇	
4 低炭素景観の創出に関する評価			
□ Q1/3.1.3 星光利用設備 □ Q3/3.2 敷地内温熱環境の向上	□ Q1/3.2.1 星光制御 □ LR3/2.2 温熱環境悪化の改善	□ Q3/1 生物環境の保全と創出 □ LR3/3.3.2 星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	低炭素景観 取組数 1/6項目
5 ライフサイクルCO₂とCO₂削減率			
ライフサイクルCO ₂ (ライフサイクルCO ₂ 参照値) CO ₂ 削減率	93.70 151.13 -57.43	kg-CO ₂ /年m ² kg-CO ₂ /年m ² kg-CO ₂ /年m ²	ライフサイクル CO ₂ 削減率 +38%
6 ウッドマイレージCO₂とCO₂削減率			
ウッドマイレージCO ₂ CO ₂ 削減効果	kg-CO ₂ kg-CO ₂	ウッドマイレージ CO ₂ 削減率 0%	〇

「ウッドマイレージ計算書」から転記 : 自由記述入力欄

CASBEE-京都-建築(新築)2018年版
京都市上下水道局南部拠点整備事業

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEE-京都-建築(新築)2018年

■評価ソフト: CASBEE京都-新築2018 (v.1.0)

スコアシート		実施設計段階				建物全体・共用部分		住居・宿泊部分			
配慮項目		重点項目等	重点項目に対する全国版評価基準の見直し	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質										3.7	
Q1 室内環境							0.40		-	3.5	
1 音環境						3.3	0.15		-	3.3	
1.1 室内騒音レベル						3.0	0.40		-		
1.2 遮音						3.4	0.40		-		
1 開口部遮音性能						3.0	0.60		-		
2 界壁遮音性能				【会議室】【応接室】Dr=40		4.0	0.40		-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						3.0	-		-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						3.0	-		-		
1.3 吸音				【執務室】床:タイルカーペット 天井:ロックウール化粧吸音板		4.0	0.20		-		
2 温熱環境						3.1	0.35		-	3.1	
2.1 室温制御						3.3	0.50		-		
1 室温						3.0	0.38		-		
2 外皮性能						3.0	0.25		-		
3 ゾーン別制御性				おおまかな空調ゾーニング+ゾーン別に冷暖房の選択可能		4.0	0.38		-		
2.2 湿度制御						3.0	0.20		-		
2.3 空調方式						3.0	0.30		-		
3 光・視環境						3.5	0.25		-	3.5	
3.1 昼光利用						1.8	0.30		-		
1 昼光率		●自然	A(全国版準用)			1.0	0.60		-		
2 方位別開口							-		-		
3 昼光利用設備		●自然	B(推奨内容)	光庭設置、調光照明設備		3.0	0.40		-		
3.2 グレア対策						4.0	0.30		-		
1 昼光制御		●自然	B(推奨内容)	ロールブラインド、小庇を設置		4.0	1.00		-		
3.3 照度				執務室・事務室照度750lx確保		4.0	0.15		-		
3.4 照明制御				1作業単位で照明制御もでき、かつリモコン等で調整で		5.0	0.25		-		
4 空気質環境						4.0	0.25		-	4.0	
4.1 発生源対策						4.0	0.50		-		
1 化学汚染物質				F☆☆☆☆建材の積極的採用		4.0	1.00		-		
4.2 換気						3.6	0.30		-		
1 換気量				中央管理方式の空調調和設備とし、		4.0	0.33		-		
2 自然換気性能		●自然	A(全国版準用)	自然換気有効開口面積>居室床面積1/30		4.0	0.33		-		
3 取り入れ外気への配慮						3.0	0.33		-		
4.3 運用管理						4.5	0.20		-		
1 CO ₂ の監視				【執務室】CO ₂ センサー制御		4.0	0.50		-		
2 喫煙の制御				建築物全体に、喫煙室なし		5.0	0.50		-		
Q2 サービス性能						-	0.30	-	-	3.9	
1 機能性						3.7	0.40		-	3.7	
1.1 機能性・使いやすさ						4.0	0.40		-		
1 広さ・収納性				一人当たりの執務スペースが9㎡以上		4.0	0.33		-		
2 高度情報通信設備対応				OA機器用コンセント容量50VA/㎡以上		5.0	0.33		-		
3 バリアフリー計画		●大切	D(独自基準)	バリアフリー新法円滑化基準を満たす		3.0	0.33		-		
1.2 心理性・快適性						2.6	0.30		-		
1 広さ感・景観 (天井高)		●とも	C(独自加算)	執務室天井高2.7m以上		2.0	0.33		-		
2 リフレッシュスペース						3.0	0.33		-		
3 内装計画		●自然	D(独自基準)			3.0	0.33		-		
1.3 維持管理						4.5	0.30		-		
1 維持管理に配慮した設計				①②⑤⑥⑧⑩⑪		4.0	0.50		-		
2 維持管理用機能の確保				①③⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫		5.0	0.50		-		
2 耐用性・信頼性						4.0	0.30		-	4.0	
2.1 耐震・免震・制震・制振						3.8	0.50		-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				重要度係数:Ⅱ類(Q _u /Q _{un} =1.30)		4.0	0.80		-		
2 免震・制震・制振性能						3.0	0.20		-		
2.2 部品・部材の耐用年数						3.7	0.30		-		
1 躯体材料の耐用年数		●大切	A(全国版準用)	等級2相当の躯体材料使用		4.0	0.20		-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						3.0	0.20		-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				床材:ビニル床シート、タイルカーペット 壁材:ビニルクロス 天井:化粧石膏ボード		4.0	0.10		-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						3.0	0.10		-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				上位3種の2種以上にB以上を使用。Eは不使用		5.0	0.20		-		
6 主要設備機器の更新必要間隔						3.0	0.20		-		

2.4 信頼性	1	空調・換気設備			空調換気設備のデマンド制御、地震時対策実施	5.0	0.20	-	-	-
	2	給排水・衛生設備			節水型器具の採用、汚水一時貯留槽	5.0	0.20	-	-	-
	3	電気設備			非常用発電機、無停電源設備、屋上設置、電源二重化	5.0	0.20	-	-	-
	4	機械・配管支持方法			耐震クラスS	5.0	0.20	-	-	-
	5	通信・情報設備			通信手段の多様化、引き込みルートの二重化、防災無線計画	5.0	0.20	-	-	-
						4.0	0.30	-	-	4.0
3 対応性・更新性										
3.1 空間のゆとり										
1	階高のゆとり				5.25m(1階) 4m(2~8階)	4.6	0.30	-	-	-
						5.0	0.60	-	-	-
2	空間の形状・自由さ	●	大切	A(全国版準用)	壁長さ比率:0.06(5階)	4.0	0.40	-	-	-
3.2 荷重のゆとり										
						3.0	0.30	-	-	-
3.3 設備の更新性										
1	空調配管の更新性	●	大切	A(全国版準用)	構造部材・仕上材を痛めず、更新・修繕可能	4.4	0.40	-	-	-
						4.0	0.20	-	-	-
						4.0	0.20	-	-	-
						5.0	0.10	-	-	-
						5.0	0.10	-	-	-
						5.0	0.20	-	-	-
2	給排水管の更新性	●	大切	A(全国版準用)	構造部材を痛めず、更新・修繕可能	4.0	0.20	-	-	-
3	電気配線の更新性	●	大切	A(全国版準用)	構造部材・仕上材を痛めず、更新・修繕可能	5.0	0.10	-	-	-
4	通信配線の更新性	●	大切	A(全国版準用)	仕上材を痛めず、更新・修繕可能	5.0	0.10	-	-	-
5	設備機器の更新性	●	大切	A(全国版準用)	機器更新ルート確保(非常EV利用)	5.0	0.20	-	-	-
6	バックアップスペースの確保	●	大切	A(全国版準用)	バックアップスペース確保	4.0	0.20	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)										
						-	0.30	-	-	4.0
1	生物環境の保全と創出	●	とも	A'(全国版準用)	・緑の東西軸をつなぎ、生態系保全に寄与	4.0	0.30	-	-	4.0
2	まちなみ・景観への配慮	○		C(独自加算) D(独自基準)	・周辺の町並みの風景にハラス良く調和。 ・植栽による良好な景観形成	4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮						4.0	0.30	-	-	4.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上						5.0	0.50	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上						3.0	0.50	-	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性										
						-	0.40	-	-	4.6
LR1 エネルギー										
1 建物外皮の熱負荷抑制						モデル建築計算結果 BPI=0.90	4.0	0.20	-	4.0
2 自然エネルギー利用						自然通風を積極利用	4.0	0.10	-	4.0
3 設備システムの高効率化						[BEI][BEI] = 0.54 太陽光発電の利用、ソーラ熱導入	5.0	0.50	-	5.0
4 効率的運用							4.5	0.20	-	4.5
集合住宅以外の評価							4.5	1.00	-	-
4.1 モニタリング						BEMSの導入	5.0	0.50	-	-
4.2 運用管理体制						BEMSの導入	4.0	0.50	-	-
集合住宅の評価							-	-	-	-
4.1 モニタリング							-	-	-	-
4.2 運用管理体制							-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル										
						-	0.30	-	-	3.8
1 水資源保護						4.2	0.20	-	-	4.2
1.1 節水						節水型大便器(ロータンク式)	4.0	0.40	-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用							4.4	0.60	-	-
1 雨水利用システム導入の有無						雨水利用設備の導入	5.0	0.70	-	-
2 雑排水等利用システム導入の有無							3.0	0.30	-	-
2 非再生性資源の使用量削減							3.8	0.60	-	3.8
2.1 材料使用量の削減						B(推奨内容) D(独自基準)	3.0	0.10	-	-
2.2 既存建築躯体等の継続使用							3.0	0.20	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用						B(推奨内容) D(独自基準) A'(全国版準用)	3.0	0.20	-	-
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用						再生クラッシュラン、ビニル床シート、インターロッキングブロック	5.0	0.20	-	-
2.5 持続可能な森林から産出された木材						B(推奨内容) D(独自基準)	3.0	0.10	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み						A(全国版準用)	5.0	0.20	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避							3.4	0.20	-	3.4
3.1 有害物質を含まない材料の使用							3.0	0.30	-	-
3.2 フロン・ハロンの回避							3.6	0.70	-	-
1 消火剤						不活性ガス消火の採用	4.0	0.33	-	-
2 発泡剤(断熱材等)						吹付け硬質ウレタンフォームA種1Hの採用	4.0	0.33	-	-
3 冷媒							3.0	0.33	-	-
LR3 敷地外環境										
						-	0.30	-	-	3.6
1 地球温暖化への配慮						省エネ設備の導入	4.5	0.33	-	4.5
2 地域環境への配慮							3.2	0.33	-	3.2
2.1 大気汚染防止							3.0	0.25	-	-
2.2 温熱環境悪化の改善							3.0	0.50	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制							4.0	0.25	-	-
1 雨水排水負荷低減							3.0	0.25	-	-
2 汚水処理負荷抑制						汚水と雨水を分別排水	4.0	0.25	-	-
3 交通負荷抑制						適正な場の駐車場確保、管理用車両や荷物を車両の駐車場確保	5.0	0.25	-	-
4 廃棄物処理負荷抑制						廃棄物発生を抑制	4.0	0.25	-	-
3 周辺環境への配慮							3.2	0.33	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止							3.0	0.40	-	-
1 騒音							3.0	0.33	-	-
2 振動							3.0	0.33	-	-
3 悪臭							3.0	0.33	-	-
3.2 風害・砂塵・日照阻害の抑制							3.0	0.40	-	-
1 風害の抑制							3.0	0.70	-	-
2 砂塵の抑制							-	-	-	-
3 日照阻害の抑制							3.0	0.30	-	-
3.3 光害の抑制							4.4	0.20	-	-
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策						光害対策が「ラインチェックリスト」の過半を満たす	5.0	0.70	-	-
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策							3.0	0.30	-	-

記号凡例 ●:重点項目 ○:低炭素景観創出に係る項目

重点項目キーワード凡例 「大切」:大切に使う「とも」ともに使う「自然」:自然からつくる